



XAFSの基礎理論 これからXAFSを始める人のために

宮永崇史 弘前大学理工学研究科





■XAFSの特徴 ■X線と物質の相互作用 ■X線吸収微細構造(XAFS) ■EXAFSの解析法 ■XAFSの興味ある応用例





Advantage

- OX線吸収原子の周りの構造を 選択的に得られる
- 〇試料の相を選ばない(固相、 液相、気相)
- ○環境を選ばない(高温、高圧、 雰囲気を任意に設定可)
- 〇異種原子との混合物可
- 〇局所構造情報
- 〇非破壊測定
- 〇測定、解析が比較的容易〇感度が高い(特に蛍光法)

Note

- ●三次元情報は困難 → 解析
 に任意性
- ●同種原子からなる混合物は 平均的な情報
- ●実験条件が悪くてもデータ はとれる
- ●強い連続X線を必要とする



■ 透過法(一般的な方法、XAFSの基本、高精 度の情報、試料の厚さ調整が必要)

■ 蛍光法(目的物質が希薄な試料、薄膜材料)

■ 電子収量法(さほど希薄ではなく、透過法の 適用が難しい試料、表面敏感)

他の分光手法との比較

- XRD(摂動はX線、検出はX線、プローブもX線)
- XPS(摂動はX線、検出は電子)
- 中性子散乱(中性子を利用、核散乱) ~10⁻¹³sec
- Raman(摂動はレーザー光、原子振動によるエネルギー 移動)~10⁻¹³sec
- ■赤外吸収(摂動は赤外光、原子振動を直接励起)
- NMR、EPR(核スピンおよび電子スピンによるラジオ波吸収)~10⁻¹⁰sec
- XAFS(摂動はX線、検出はX線、プローブは電子) →光と電子の相互作用が重要 ~10⁻¹⁶sec



X線と物質との相互作用







X線吸収過程





X線吸収微細構造 (X-ray Absorption Fine Structure)

XANES(X線吸収端微細構造) EXAFS(広域XAFS)









BL9Aの試料周辺 測定温度範囲 25~300 K:Heクライオスタット 300~1000 K:電気炉







Fig. 4. Comparison of the Cr K-edge XANES of Cr^{3+} and CrO_4^{2-} reference solutions. Note the large pre-peak and shift of the main absorption rise of the CrO_4^{2-} spectrum

XANES (Crの価数変化)



XANES TiとV価数変化



8





Fig. 4. XANES spectra for 1 M solutions of (a) V^{IV}, (b) V^{III}, and (c) V^{II} in 1 M H₂SO₄ solutions. Dashed line in (a) is for VOSO₄•5H₂O. Dashed line in (b) denotes that in 1 M HCl solution.

電池材料の放充電(MnMoV₆)











隣に原子が存在すると?





J.Rockengerger et al., 1998



EXAFSの解析法











EXAFS基本式

 $\chi(k) = \sum_{i} \frac{N_{i} S_{0}^{2}}{k r_{i}^{2}} |f_{i}(k,\pi)| e^{-2(\sigma_{i}^{2} k^{2} + r_{i}/\lambda(k))} \sin(2k r_{i} + \delta_{i}(k))$

N_i: 原子iの配位数 r_i: 原子iまでの平均距離 σ_i: Debye-Waller因子 f(k,π): 原子iの後方散乱振幅 λ(k):光電子の平均自由行程 δ_i(k): 原子iの位相シフト

未知パラメータとして 最小2乗フィッティング

> 理論計算ソフトFEFF 9 (by J.J.Rehr, UW)







0

Maximum at higher energy when Z increases $f(k,\pi)$ Si As 0.8 9.0 dm Mublitude Amplitude 0.2 0 12 0 4 8 16 20 $k({\overset{-}{A}}^{-1})$

温度依存性 FeRh合金の例







調和振動

6

$$V(r) = \frac{1}{2}M \,\omega_E (r - r_0)^2 \quad (1)$$

$$\sigma_T^2 = \sigma_0^2 \coth\left(\frac{\hbar\,\omega_E}{2\,k_B T}\right) \tag{2}$$

 $\omega_{\rm E}$:Einstein振動数





純鉄のDW因子温度依存性

破線が調和Einsteinフィッティングの結果

調和ポテンシャル



■ XANES(X線吸収端微細構造)

- 1) 3次元情報(多重散乱一長い平均自由行程)
- 2) 電子状態および価数情報(空軌道への遷移)
- 3) 構造に敏感 → 指紋領域として利用
- EXAFS(広域X線吸収微細構造)
- 1) 動径分布(1次元距離情報)1回散乱
- 2) 配位数
- 3) 高精度 R:±0.01A, N:±10%
- 4) 温度因子(動的現象)





XAFSの興味ある応用例



➤XANES
➤EXAFS
➤XMCD(磁気XAFS)









XRDとXAFSの違い

XRDIt

- 長距離の秩序でX線の散乱強度が増大(中に不規則な相が含 まれていても規則相からの信号に埋もれてしまう)
- 系全体の空間平均的な情報が得られる。
- クラスの中の優秀な学生に沿った教育を行うのに似ている。

XAFSIt

- 短距離秩序に依存するため規則相と不規則相からの信号を 相応に含む。
- 局所的に異方的な情報はそのまま引き継がれる。
- クラスの中のあらゆる生徒個人の意見を聞く教師に似ている。

Single-Quantum-Well LED



0

In_xGa_{1-x}N LED



Chichibu, S.F., Sota, T., Wada, K., Brandt, O., Ploog, K.H., DenBaars, S.P., and Nakamura, S., *Phys. Stat. Sol.(a)*, 183, 91 (2001).



Structure of InGaN SQW (3nm)



EXAFS $k\chi(k)$ spectra and Fourier transform of In *K*-edge for In_{0.20}Ga_{0.80}N SQW in horizontal and vertical directions.









- (2) In-Ga/In: Vertical (3.28-30A) > Horizontal (3.24-25A)
- \rightarrow SQW is biaxially compressed in *a-b* plane





(1) Horizontal: In atoms are randomly distributed (2) Vertical: In atoms are aggregated and located top and bottom



In mole fluctuation !









EXAFS Teナノ粒子~粒径依存性





♯ X線磁気円2色性(XMCD)

- 円偏光したX線を利用
- 中心原子および散乱原子の磁気モーメント(磁気構造)を反
 映



XMCD for Fe $L_{II,III}$ edges







Y.U.Idzerda et al., SRN, 10, 6 (1997).

おわりに

これからXAFSを始める人へ

- 1) 現場の試料でも直接測定が可能。(透過法、蛍光法、・・・)
- 2) 状態の変化を調べるのに適す。(温度、圧力、濃度、電圧・・・)
- 3) 元素選択性は魅力的。
- 4) 測定は比較的簡単、しかし解析は・・・

もうXAFSをやめようと考えている人へ

- XAFSと光源の原理をもう少し深く知ることによって、新たな 可能性が見えてくる。
- 1) 温度因子→動的な挙動、原子間ポテンシャル
- 2) 短いX線の相互作用時間→時間分解測定
- 3) 狭い領域のXAFS →空間分解
- 4) 磁気XAFSの利用

放射光の特性





「XAFS討論会」の紹介

主催:日本XAFS研究会(会長:朝倉清高(北海道大学))

XAFSおよびその関連手法に関する日本唯一の専門会議

開催時期:8月から9月の3日間(100±30名規模)

次回討論会: 第13回XAFS討論会(立命館大学)